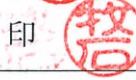


論文審査及び最終試験又は学力確認の結果の要旨

① ・ 乙	氏 名	金山 三紗子
学 位 論 文 名	The Gut Microbiota Response to Electroconvulsive Therapy for Schizophrenia: A Prospective Cohort Study	
学位論文審査委員	主 査	長井 篤 
	副 査	藤谷 昌司 
	副 査	牧石 徹也 

論文審査の結果の要旨

統合失調症は精神疾患の主たる疾患であるが、薬物療法の効果は寛解率が半数程度と高くない。薬物療法で難治な状態に用いられる治療法として電気痙攣療法（Electroconvulsive therapy: ECT）があるが、治療効果の機序は不明な点が多い。

本研究は、統合失調症を有し ECT を施行された患者 11 名（男性 4 名）を対象として腸内細菌叢が ECT の治療効果を予測するかどうかを検証した探索的コホート研究である。

日本精神神経学会のガイドラインに従い実施した ECT（1 セッション、3－14 回）の前後で糞便を採取し、T-RFLP 法（terminal restriction fragment length polymorphism 法）を用いて細菌の構成割合を測定した。結果、ECT 前後で簡易精神症状評価尺度を用いて測定した統合失調症の重症度は有意に低下した（ $p < 0.01$ ）。前後で各細菌の構成割合に有意な変化はなかった。一方で ECT 前の糞便中のビフィドバクテリウム属の割合が多いこと（ $p = 0.023$ ）およびラクトバシラスが少ないこと（ $p = 0.020$ ）が、ECT 後の統合失調症の重症度の低下と関連していた。バクテロイデス、プレボテラ、クロストリジウムは有意な関連を示さなかった。

本研究は、未だ不明な ECT の効果発現機序、さらに統合失調症の病態解明につながる知見であるとともに、臨床面では統合失調症患者に ECT を適応するかどうかの選択に際して参考となる条件の開発につながる知見である。

最終試験又は学力の確認の結果の要旨

申請者は、統合失調症患者の ECT 治療効果機序を解明するため、治療前後の腸内細菌叢の変化を検討し、治療前の細菌叢の構成が治療効果と関連することを見出した。研究結果は臨床的意義を含む貴重な研究であり、申請者の豊富な関連知識も確認できたことより学位に値すると判断した。

（主査：長井 篤）

申請者は、統合失調症患者に効果が高い電気痙攣療法に着目して研究を行っている。昨今の腸脳連関研究の進歩を踏まえ、腸内細菌叢の構成が治療前後に関与するという仮説を立てて研究が行われた。臨床的な周辺知識を豊富にもち、受け答えも確かであり博士の学位授与に値すると判断した。

（副査：藤谷 昌司）

申請者は、腸内細菌叢と脳の関係すなわち腸脳相関の視点から ECT 治療の治療効果メカニズムを解明すべく本研究に取り組み、そこに一定の相関関係を見出し更なる研究仮説を導き出している。類報を見ない独創的研究であり臨床的意義も高い。関連知識も豊富であり学位に値すると判断した。

（副査：牧石 徹也）

（備考）要旨は、それぞれ 400 字程度とする。